

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「メドゥーサ」

テーマ：「誰よりも美しいのに、その顔をけして人に見せられない美少女」

キャラクター

50

ストーリー

40

テーマ(設定)

45

文章力

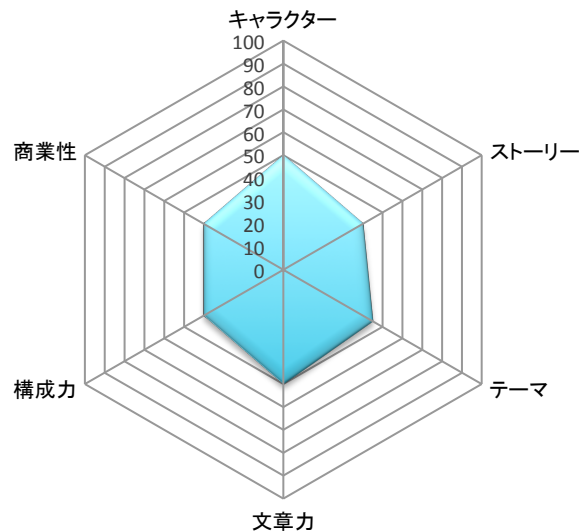
50

構成力

40

商業性

40



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がりに欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- 時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- 物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- 伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- 笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- 「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・双子入れ替わりトリックに、「入れ替わりとは気付かなかった、非常に面白い」「入れ替わっていたことは簡単過ぎたが、そこからトリックをそれだけで終わらせず発展させたことが良かった」「入れ替わってことはすぐ分かってしまつてつまらなかった上に、更によくわからないトリックができて何おもしろいのか分からない」など、とにかく賛否両論の意見が飛び交いそうな作品。個人的には2番目と3番目の間ぐらいの印象。

・心理劇を通じた怪しげな雰囲気は非常に良いのであるが、その他色々詰め込み過ぎて、この作品の最大の魅力が何なのか分からなくなってしまっている(しかも印象としては、50枚だから書ききれなかっただけで更に詰め込みたい設定があったような印象さえ受ける)。読んでいた印象として、恐らく一番の魅力はトリックの解明による「びっくりした」という点ではなく、彩香と映の間における恋の感情にあるような気がする。その魅力が、トリックの為に用いられた視点移動や叙述トリックにより薄まっているため、もういっそただの入れ替わりにして二人の心理描写に文をさくか、もしくはサスペンスとして徹底的にトリックにつき込むか、どちらかに傾ききつた方が良かったのではないかと。 (ただ長編ではこの設定二つが両立できる可能性が高い！)

・恐らく題名が単純すぎて損をしている。「途中に『の』が入る作品は面白い」「最期が『ん』で終わる作品ははやる」という謎のジンクスがあったりするの、もし困っていたのであれば「メドゥーサの○○ん」がおすすめ(?)

合計加点ポイント 0

総得点: 265 / 600

B方式総合得点: 11704 点